

世界が進むチカラになる。



経済調査

# 米国景気概況(2024年12月)

2024年12月3日

調査部 主任研究員

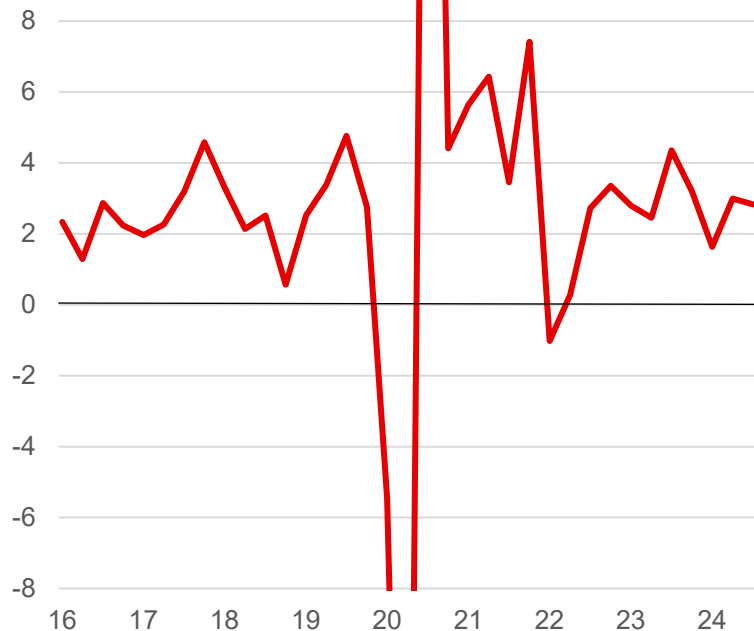
細尾 忠生

# 景気は底堅い

米国経済は底堅く推移している。7-9月期の実質GDP成長率(改定値)は前期比年率2.8%と、10期連続でプラス成長となった。前期に成長率を1.1%ポイント押し上げた在庫投資がマイナス寄与に転じたものの、個人消費、設備投資などの最終需要の伸びが拡大した。一方、企業の景況感を示すISM景況指数は、製造業で判断の目安となる50の水準を下回ったが、非製造業は2年3ヶ月ぶりの高水準に改善した。先行き、個人消費がこれまで好調に推移した反動などで弱含むとみられるが、全体として景気は底堅く推移する見通しである。

## 実質GDP

(前期比年率、%)

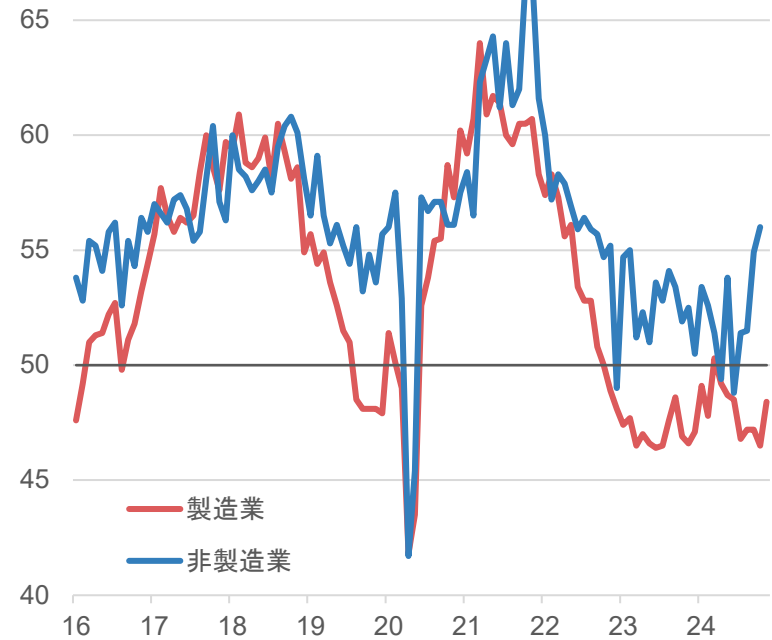


(年、四半期)

(出所)米商務省

## ISM景況指数

(%)



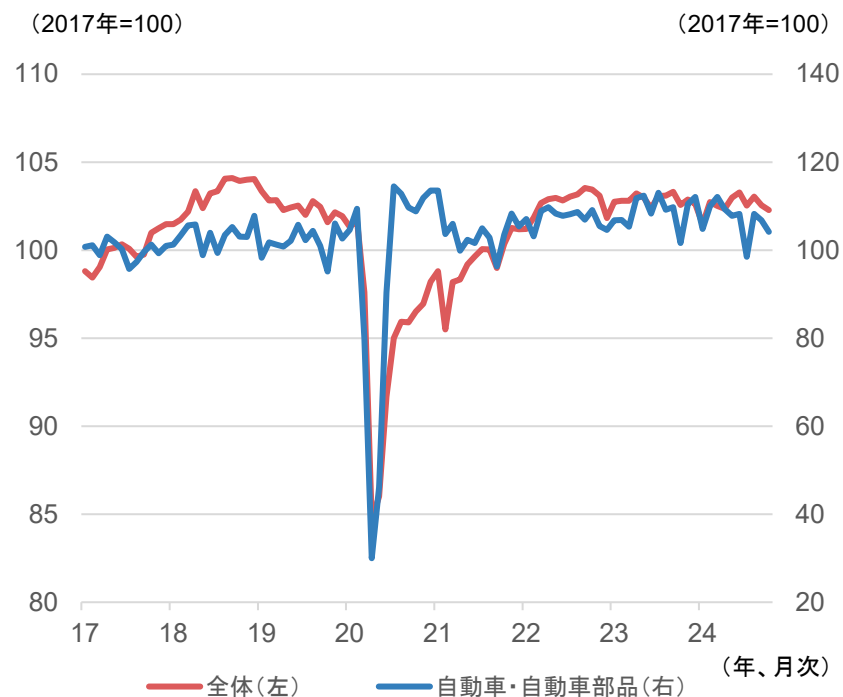
(年、月次)

(出所)米供給管理協会

# 生産減、雇用は微増、失業率横ばい

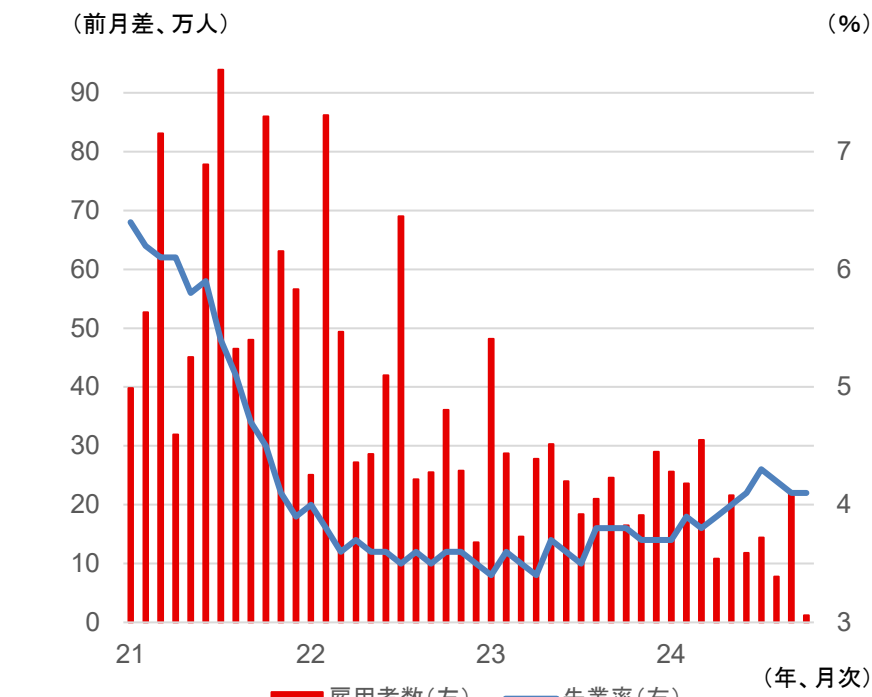
- 10月の鉱工業生産は前月比0.3%減と2ヶ月連続減少した。ハリケーンや航空機メーカーストの影響に加え、自動車・部品が同2.5%減少し全体を押し下げた。設備投資動向を示す10月のコア資本財出荷は同0.2%増と4ヶ月ぶりに増加した。
- 10月の非農業部門雇用者数は前月差1.2万人増と、大型ハリケーンや大企業でのストライキの影響などによりコロナ禍の2020年12月以来の低い伸びにとどまった。派遣労働者などが含まれる専門サービス(同4.7万人減)や製造業(同4.6万人減)の落ち込みが大きかった。一方、失業率は4.1%と横ばいであった。

## 鉱工業生産



(出所)米FRB

## 雇用



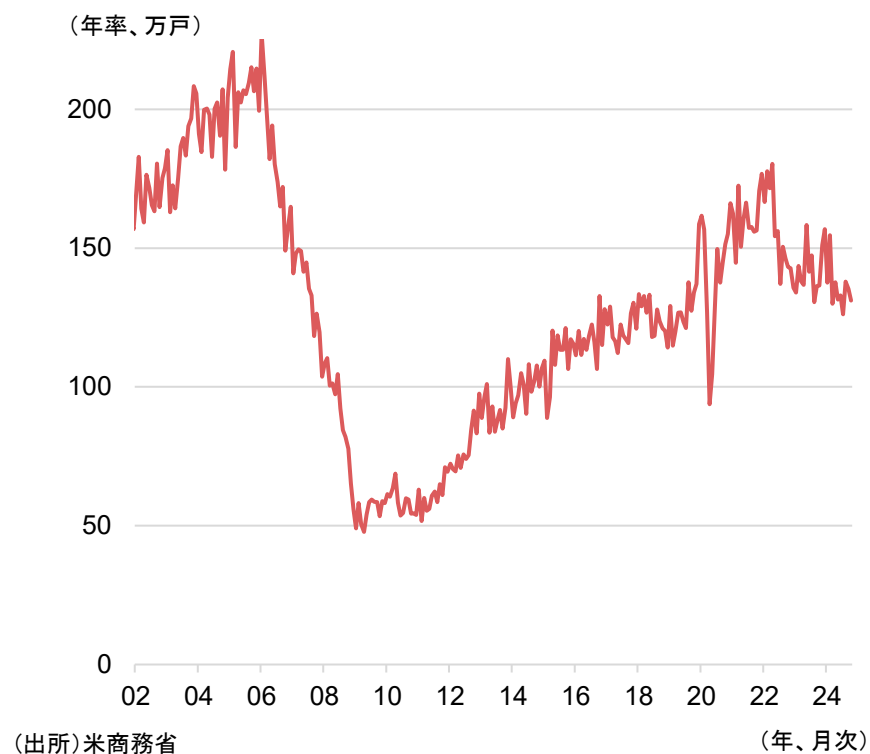
(出所)米労働省



# 住宅：着工は小幅減、価格は上昇

- 10月の住宅着工件数は年率131万戸と、ハリケーンの影響などもあり2ヶ月連続で小幅減少した。傾向としては、住宅価格やローン金利が高止まりしている影響により、住宅着工の低迷が続いている。
- 9月の住宅価格指数は前年比4.2%上昇した。上昇は16ヶ月連続となったが上昇率は6ヶ月連続で鈍化した。米国では住宅の供給不足が根強く、住宅価格は今後も上昇が続く見込みである。

## 住宅着工件数



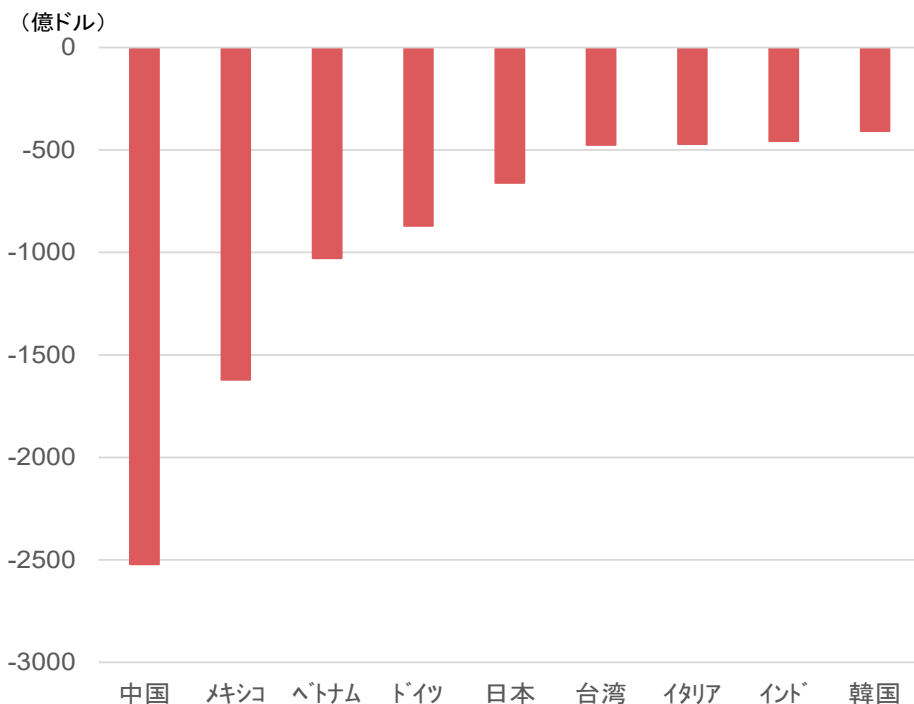
## S&Pコアロジック・ケース・シラー住宅価格指数



# トランプ氏の経済政策が米国の内外に及ぼす影響

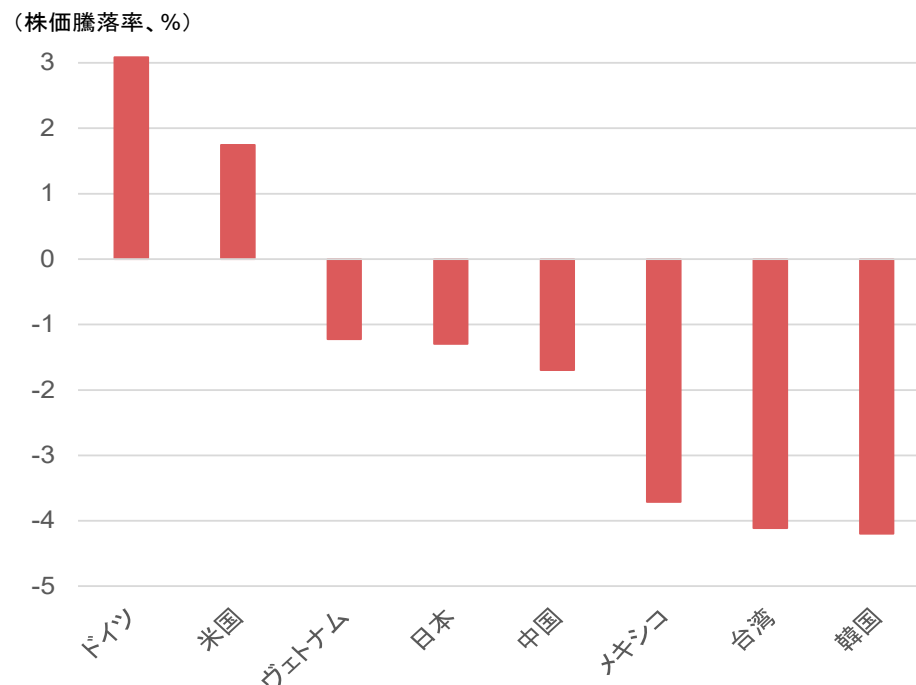
- トランプ次期大統領は選挙戦中から追加関税の導入を主張してきた。実際に追加関税措置が発動されると、米国にも対象国にも貿易面の影響が避けられない。もっとも、米国には減税や規制緩和など経済押し上げ効果への期待も根強い。
- そうした中、米大統領選挙後の各国の主要株価指数の騰落率をみると、トランプ次期大統領の経済政策への期待が強い米国に加え、大幅な利下げ期待が強まったドイツを除き、追加関税の対象になりやすい対米貿易黒字の大きい国ほど株安が目立つ。トランプ次期大統領の経済政策やその効果は政権発足後に影響があらわれるが、金融市場の現時点での評価をみれば、米国と米国以外の国について、非対称的な影響が織り込まれていることが読み取れる。

## 米国の貿易赤字(国別、2023年)



(出所)米商務省

## 米大統領選挙後の各国の株価騰落率

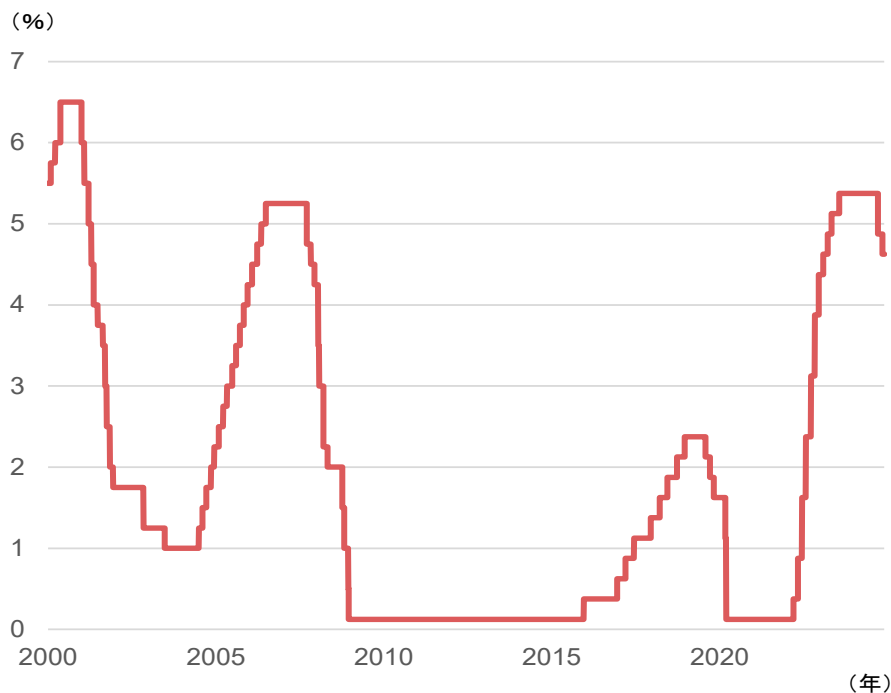


(注) 米大統領選挙翌日の11/6~11/29までの株価騰落率  
(出所)CEIC

# 金融政策は利下げペースが焦点

- FRBは11月6、7日に開催した連邦公開市場委員会（FOMC）で、政策金利であるFF金利の誘導目標を0.25%引き下げ、4.5～4.75%とした。政策金利の引き下げは2会合連続。パウエル議長は会見で、今後の利下げペースについて会合ごとに判断する方針をあらためて示した。
- 一方、米金利先物の動きからFOMCごとの政策金利を予想するCMEの「フェドウオッチ」によると、景気の底堅さや、トランプ氏による減税、関税などインフレを加速しかねない政策の影響により、各FOMCの予想金利は9月FOMC会合時と比べ上昇した。すなわち、金融市場では、25年末までに3回程度の利下げが予想されている。経済物価情勢やトランプ氏の政策などを踏まえ、実際にどの程度の利下げが実施されるかが今後の金融政策の焦点となる。

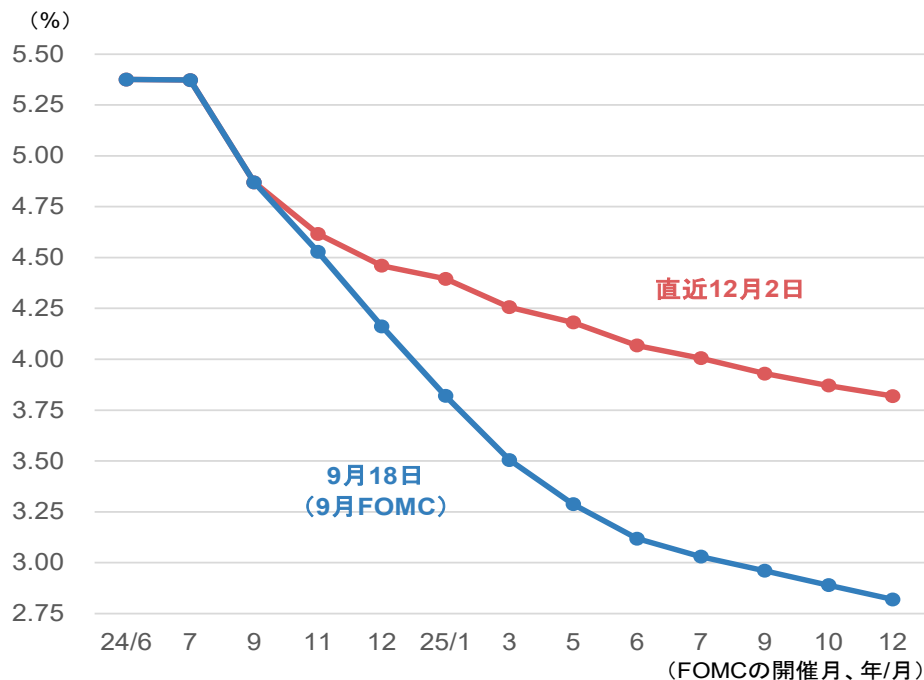
## 政策金利



(出所)FRB

Mitsubishi UFJ Research and Consulting

## 金融市場における各FOMCの金利見通し



(注)各FOMCごとの利上げ確率をもとに計算した加重平均値  
(出所)シカゴマーカンタイル取引所

## ご利用に際して

---

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。



(お問い合わせ)

調査・開発本部 調査部 細尾

TEL: 03-6733-4925 E-mail: [chosa-report@murc.jp](mailto:chosa-report@murc.jp)

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー